

Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は142～144円台を軸にもみ合いで推移か

〔6月9日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）				6月2日～6月6日	
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	143.99	144.38(4)	142.38(3)	144.03	+0.01
ユーロ・ドル	1.1346	1.1495(5)	1.1341(2)	1.1440	+0.0093
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終 値	前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	37,741.61	-223.49	日本10年債利回り	1.459	-0.042
ダウ平均株価	42,319.74	+49.67	米10年債利回り	4.391	-0.010
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 9日 日本第2四半期GDP 2次速報、日本4月経常収支
中国5月消費者物価指数、中国5月生産者物価指数、中国5月貿易収支
- 10日 英5月雇用統計
- 11日 米5月消費者物価指数
- 12日 英4月鉱工業生産指数、英4月製造業生産指数、英4月貿易収支
米5月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数
- 13日 日本4月鉱工業生産指数確報値
独5月消費者物価指数確報値
ユーロ圏4月貿易収支、ユーロ圏4月鉱工業生産指数
カナダ4月製造業出荷、カナダ4月卸売売上高
米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】ドル円は142円台では買いに支えられたものの、146円台では売り圧力に押されている。トランプ関税関連の報道や米経済指標の動向に左右されやすいものの、一本調子での上昇や下落は想定しにくい。143～145円台のレンジを軸に上下に振幅する展開が見込まれるとした。

【ドル円はレンジ内での振幅で方向感が出にくい】

6月2日の朝方、トランプ米大統領が鉄鋼とアルミニウムへの輸入関税を4日より25%から50%へ引き下げると表明した。これを嫌気してリスク回避の動きが進んだ。さらに5月30日にトランプ米大統領が「中国が米との合意を破った。いい人を装うのはここまでだ」などと述べたことに対して、2日に中国商務省の報道官が「このような根拠のない非難を断固として拒否する」などと述べており、米中関係悪化への警戒感もドル売り円買いにつながった。

2日発表の米5月米ISM製造業景況指数は48.5となり、市場予想（49.2）だけでなく、前回（48.7）を下回った。こうした動きもドル売り円買いにつながった。ドル円は3日の朝方にかけて142円台前半まで下落している。

3日には参議院で答弁を行った植田日銀総裁が、「将来の利下げ余地を確保するためだけに利上げを急ぐことはない」などと発言したことなどを受けて円売りが強まり、143.20円台まで上昇した。いったん142円台に沈んだものの、このところのドル売り円買いの反動から上昇に転じた。NY時間に米4月雇用動態調査（JOLTS）求人件数が市場予想を上回ると、ドル買いの動きが加速して144円台に乗せた。

日本時間6月4日午後1時1分に鉄鋼アルミニウム関税を25%から50%に引き上げた。とりえず無難に通過して、市場の反応は限定的となった。NY市場では米5月

A D P雇用者数が3.7万人増となり、市場予想の11.2万人増を下回った。さらに米5月ISM非製造業景況指数が49.9となり、好不況の境目とされる50を下回ったことでドル売りの動きが進んで、ドル円は142円台半ばに下落した。

5日の海外市場で、米中首脳による電話会談が行われたと報じられるとドルが円売りに傾いた。電話会談は1時間半にわたって行われて、トランプ米大統領の「両国にとって非常に前向きな結論に達した」との発言が伝わると、ドル円は144円に接近した。

【ドル円は引き続きレンジ相場で推移か】

日米の経済指標やイベントとしては、9日に日本第2四半期GDP2次速報、日本4月経常収支、11日に米5月消費者物価指数、12日に米5月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、13日に日本4月鉱工業生産指数確報値、米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

6月2日の週には注目度の高い米経済指標が数多く発表された。米5月米ISM製造業景況指数、4日の米5月ADP雇用者数、米5月米ISM非製造業景況指数も市場予想を下回った。一方で、米4月雇用動態調査（JOLTS）求人数は市場予想を上回り、米5月米ISM製造業景況指数や米5月ISM非製造業景況指数のうち「雇用」はいずれも前回を上回った。

米経済指標はまちまちながらも、トランプ関税が徐々に実体経済に悪影響を与えているようだ。9日の週は注目度の高い米経済指標少なめとなる。11日の米5月消費者物価指数、12日の米5月生産者物価指数が注目される。米5月消費者物価指数の市場予想は前年比+2.5%（前回+2.3%）、コア前年比+2.9%（前回+2.8%）とやや伸びが加速しそうだ。市場予想を上回った場合、市場の利下げ観測が低下してドルが堅調な地合いを見せることとなろう。

ドル円はトランプ発言や米経済指標の動向に左右されやすい展開となりそうだ。ただ、米経済指標は強弱入り混じる動きが見込まれ、一方向のトレンドを描きにくいとみられる。こうした中、ドル円は最近のレンジである142～144円台を軸にもみ合いで推移すると見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、141.00～145.50円。

【ECBは予想通り0.25%の利下げ】

5日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、政策金利は市場予想の通り0.25%の引き下げとなった。声明では、「特定の金利パスを事前にコミットせず」「データ依存のアプローチを採用し、会合ごとに適切な政策を決定」としている。

理事会後の記者会見でラガルド総裁は、「ほとんどのコアインフレ指標は、インフレが目標水準で安定化すること示唆」「労働コストは徐々に緩和傾向」「利下げサイクルは終盤に差し掛かっている」などと述べた。ラガルド総裁の記者会見でECBによる利下げ休止観測が浮上すると、ユーロ買いの動きとなり、ユーロドルは1.1495近辺まで大きく上値を伸ばした。その後は伸び悩みを見せている。

ユーロドルは1.15近辺まで上昇するなど、上昇基調が続いている。上向きで推移する5日移動平均線などをサポートにして底堅い動きを見せており、一段と上値を追う展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1300～1.1650ドル。

ポンドドルは2日に5日移動平均線を上抜いた後は堅調に推移している。5日移動平均線やボリンジャーバンド+1Σなどをサポートとして、一段と上値を追う展開が見込まれる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.3400～1.3800ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、9日に中国5月消費者物価指数、中国5月生産者物価指数、中国5月貿易収支、10日に英5月雇用統計、12日に英4月鉱工業生産指数、英4月製造業生産指数、英4月貿易収支、13日に独5月消費者物価指数確報値、ユーロ圏4月貿易収支、ユーロ圏4月鉱工業生産指数、カナダ4月製造業出荷、カナダ4月卸売上高などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。